

1 気象概況（9月前半：果樹研究所）
 9月前半の平均気温は、平年と比較すると、1半旬が21.7℃で2.2℃、2半旬が21.7℃で0.9℃、3半旬が18.6℃で2.8℃と各々低く、この期間の降水量は27.0mmで平年の34%でした。

2 生育概況（果樹研究所）
 (1) もも
 ア 収穫期と果実品質
 「ゆうぞら」の収穫盛りは8月31日で平年より5日早い状況で、糖度は12.5%と平年よりやや低い状況でした。
 晩生種は、収穫前の降雨により糖度は低い傾向にあり、収穫前落果も目立ちました。

表1 ももの主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			糖度(%)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
川中島白桃	8/21	8/25	8/23	8/25	8/28	8/26	9/ 2	8/31	8/29	11.6	12.9	12.6
ゆうぞら	8/29	9/ 1	/ 29	8/31	9/ 5	/ 1	9/ 3	9/10	9/ 5	12.5	12.7	13.3

(2) なし
 ア 果実肥大（9月16日現在 暦日比較）
 「豊水」の縦径は101%、横径が103%と平年よりやや大きい状況です。
 （なお、現地のほ場では、生育の遅れ等により、全般に平年よりやや小さい傾向がみられます。）

イ 収穫期と果実品質
 「幸水」の収穫盛りは平年と比べ4日早い状況で、糖度は11.8%で平年より低い状況でした。

表2 なしの主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)昨			収穫盛(月/日)昨			収穫終(月/日)本			糖度(%)		
	本年	平年	年	本年	平年	年	年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸水	8/22	8/27	8/23	8/29	9/ 2	8/29	9/ 1	9/ 8	9/ 2	11.8	12.6	12.4
豊水	9/11	9/15	9/12	未	9/21	9/15	未	9/28	9/19	未	12.7	12.4
二十世紀	未	9/17	9/18	未	9/23	9/20	未	9/29	9/24	未	11.1	11.4
ラフランス	未	10/ 6	10/ 2	未	10/10	10/ 2	未	10/11	10/ 2	未	12.9	12.3

注) 平年値は、1981～2010年の平均値。未は未確定。

(3) りんご
 ア 果実肥大（9月16日現在 暦日比較）
 「ふじ」の縦径は99%、横径が100%とほぼ平年並みの状況です。
 （なお、現地のほ場における果実肥大もほぼ平年並みの状況です。）

イ 「ふじ」の裂果の発生状況
 9月11日現在（満開後135日）の「ふじ」
 /マルバ（49年生）の外部裂果率は5.9%、
 内部裂果も含めた裂果発生率は13.7%で昨年より低い状況にあります。

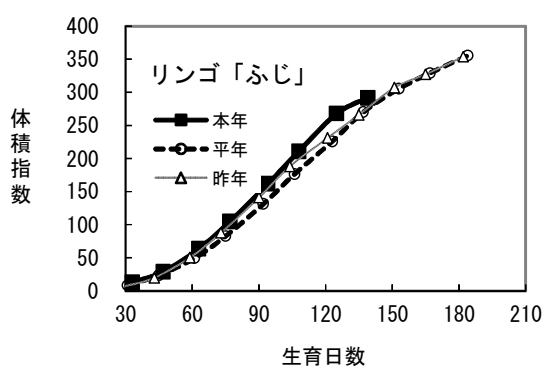


図1 リンゴの果実肥大

(4) ぶどう

ア 果実品質

「巨峰」(無核：長梢栽培)の果実品質は、果房重、一粒重ともに平年より高く、糖度は平年より低い状況でした。

表3 「巨峰」の果実品質

栽培法	果房重 (g)			1粒重 (g)			糖度 (%)			酒石酸 (%)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
有核(長梢)	282	333	417	8.3	10.4	10.0	19.7	19.7	20.0	0.59	0.53	0.60
無核(長梢)	413	389	489	12.9	12.0	10.7	15.4	17.0	15.5	0.59	0.51	0.59

東北地方1か月予報(仙台湾区気象台 平成26年9月11日発表)

今後の気温の経過は、1週目(9月13日～9月19日)は平年より低い確率が50%、2週目(9月20日～9月26日)は平年並の確率が50%、3～4週目(9月27日～10月10日)は平年並の確率が40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○ 季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

3 栽培上の留意点

(1) も も

ア 秋肥の施用

9月の早い時期に秋肥を施し、樹勢の回復に努めましょう。秋肥は尿素等の速効性肥料を用い、窒素成分で7kg/10a程度を目安に施用しましょう(施肥の詳細は、本情報第12号を参照)。

イ 秋期せん定

若木などで樹勢が強く徒長枝の発生が多い樹では、9月中旬頃(徒長枝が太る前)までに秋期せん定を実施しましょう。

主枝、亜主枝の日焼け防止を目的に配置した背面枝が長大化している場合は、基部の新梢発生位置まで切り詰めるか、数芽を残して短切しましょう。なお、樹勢が弱い樹では葉数確保を優先し、秋期せん定は最小限としましょう。

(2) な し

ア 収穫

「あきづき」の収穫は、地色指数(日本なし用カラーチャート)で3.5～4の果実を目安に収穫しましょう。なお、地色指数が4を越えると果肉硬度が低下する傾向があるため、適期収穫に努めましょう。

(3) りんご

ア 中生種の収穫前管理と収穫

各品種の生育状況に合わせ、摘葉や玉回し等の着色管理を遅れないように実施しましょう。また、収穫は地色等の推移に十分注意し、適期収穫に努めましょう。

イ 「ふじ」の着色管理

栽培面積が多い場合は9月下旬頃から葉摘みを行いましょ。葉摘みは2回程度行うこととし、1回目は3～4枚程度の果そう葉を摘む程度とし、10月中～下旬頃に再度強めに行いましょう。

(4) ぶどう

ア 収穫

収穫が遅れると果肉が柔らかくなる等、果実品質を低下させる原因となるため、適期収穫に努めましょう。

イ 秋肥の施用

9月は、秋根が活発に伸びる時期となります。養分吸収の盛んなこの時期に秋肥を施用し、貯蔵養分の蓄積を図りましょう。

肥料は尿素等の速効性肥料とし、窒素成分2kg/10aを目安に施用しましょう。

なお、樹勢が強い（葉色が濃く、遅伸びしているような新梢が多い）場合には、秋肥の施用は控えましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア ももせん孔細菌病

本病の防除で最も効果が期待されるのは秋期防除です。2週間間隔で計3回の防除を必ず実施しましょう。

今後、台風等の強風を伴った降雨で落葉した場合、落葉痕からの感染が多くなりますので、台風の通過前には必ず防除を行いましょう。

イ なし黒星病

本病の発生が多かった園では越冬菌密度の低下を図るため、「豊水」の収穫後（9月下旬～10月下旬）に2回目の秋期防除を必ず実施しましょう。なお、枝の先端まで薬液が十分量到達するように散布を行いましょう。

ウ りんごの各種病害

9月中旬以降、降雨により湿度が高い状態が続くと、褐斑病、すす点病、すす斑病の発生が助長されますので、このような場合は防除を実施しましょう。

また、中生種の「陽光」や「ジョナゴールド」などの炭疽病は、今後、二次感染により発生が拡大するおそれがありますので、被害果は見つけ次第速やかに除去しましょう。

(2) 虫 害

ア コスカシバ

本種による被害が多いもも園では、収穫後（9月中旬～下旬頃）に枝幹部への薬剤散布を徹底しましょう。

イ クワコナカイガラムシ

発生の多い園では9月下旬頃までにバンド誘殺の資材を設置しましょう。

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#gi_jyutsu_jyohou

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>